

平成 28 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



橋本 泰子 (はしもと やすこ)

1935 年 10 月 19 日生まれ

【授賞理由】

認知症の人に対して「その人らしさ」を重視した介護を実践するためには、地域・家族・制度が一体となって支えることが必要不可欠であるという理念を長年にわたり提唱し続けました。さまざまに変化し続ける時代においても一貫して主張し続けられたその理念は、今日では介護保険制度の中にしっかりと根づきわが国の社会福祉制度の礎となりました。

【略歴】

1958 年 3 月 日本女子大学家政学部社会福祉学科卒業
1958 年 4 月～1995 年 3 月 財団法人鉄道弘済会
1984 年 4 月～1995 年 3 月 社会福祉法人東京弘済園
1995 年 4 月～1998 年 3 月 西南女学院大学保健福祉学部（教授）
1998 年 4 月～2008 年 3 月 大正大学人間学部（教授）
2008 年 4 月～ 大正大学名誉教授

【業績および活動内容】

1984 年 4 月に弘済ケアセンター所長に就任し、5 月から事業を開始した。当初予定した利用者は、身体的な機能が低下して一般的な老人福祉センターでは活動できない高齢者であった。そのため「認知症」についての知識を全く持っていなかった職員に対し、当時まだ少なかった専門医を招き、業務終了後に勉強会をおおよそ半期 2 回程度の頻度で継続して開催した。

また、認知症の人を対象とするデイサービスについては、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士等が緻密な評価のうえに、当事者とその家族に対し計画的に集団的、個別的にプログラムを組んで対応をした。

1984 年度から 3 年間にわたり「痴呆老人の地域ケア」の研究を行った。日本生命財団の助成によって、地域の関係者と研究・実践をするなかで、“協働”の必要性を地域の多くの人々が知った。認知症の人が安全で安定した生活をするためには、近隣の人々は勿論、商店街の人も交番の警察官も、そして社協・福祉事務所・保健所等の専門職も、民生委員も、すべての人が参加して認知症の人を守らなければならないことを知った。その中で、保健所の保健師や弘済ケアセンターのソーシャルワーカーによって、調整機関とケアマネジャーの役割を明確にした。